



人吉市【熊本県】 歴史文化基本構想

■ 策定年月：平成27年3月 ■ 人口：34,511人 ■ 面積：210km²
■ 担当課：人吉市教育委員会歴史文化課（平成30年3月現在）



人吉市内には、古社寺、仏教美術、史跡、無形民俗文化財などの指定文化財だけでなく未指定の文化財も数多く存在する。これらの文化財に関する情報の整理を行い、かけがえのない遺産を、市民に知ってもらい、次世代へ引き継ぐため、保存整備活用を行い、文化財を中心とした将来的なまちづくりに活かせるものとするため歴史文化基本構想を策定した。

5 歴史文化を表す つのキーワード

史跡群、仏教美術、古社寺群、鉄道遺産、郷土芸能

課題

- ・ 多数ある文化財の把握、整理の不足
- ・ 文化財の適切な管理の不足
- ・ 保存のための資金の不足
- ・ 地域振興や観光振興に結びつける担い手の不足

保存活用方針

- ・ 文化財を護る（調査、指定、修理等）
- ・ 文化財を育む（機運醸成、人材育成）
- ・ 文化財を魅せる（活用、情報発信、交流促進）

保存活用のための取り組み

「相良700年」を物語る史跡群

史跡人吉城跡は、中世から近世までこの地を治めた相良氏の領国支配の拠点となった城郭で歴史文化の象徴的存在であり、地域住民の心の拠り所として、史実に基づいた保存復元を行うことに加え、地域学習の場や観光資源として活用を図っていく。



「ほとけの里」人吉球磨に花開いた仏教美術と信仰文化

美術工芸品でもある仏像の多くは、お堂などの建物内に安置されている。しかし近年、お堂を守る地域住民の高齢化により、その維持管理や信仰文化の伝承など各種の問題を抱えており、その解決策を関連する広域の遺産群との連携や連動を視野にいれ検討する。



相良700年の歴史の風格を感じさせる古社寺群

当地域の古社寺は、その多くが中世の名残ある特有の建築様式を残す茅葺き建造物である。これらの修理計画を球磨地域文化財広域連携協議会で策定し、その歴史的価値を損なうことなく保護し、地域学習の場や観光資源としての活用も図りながら後世に伝えていく。



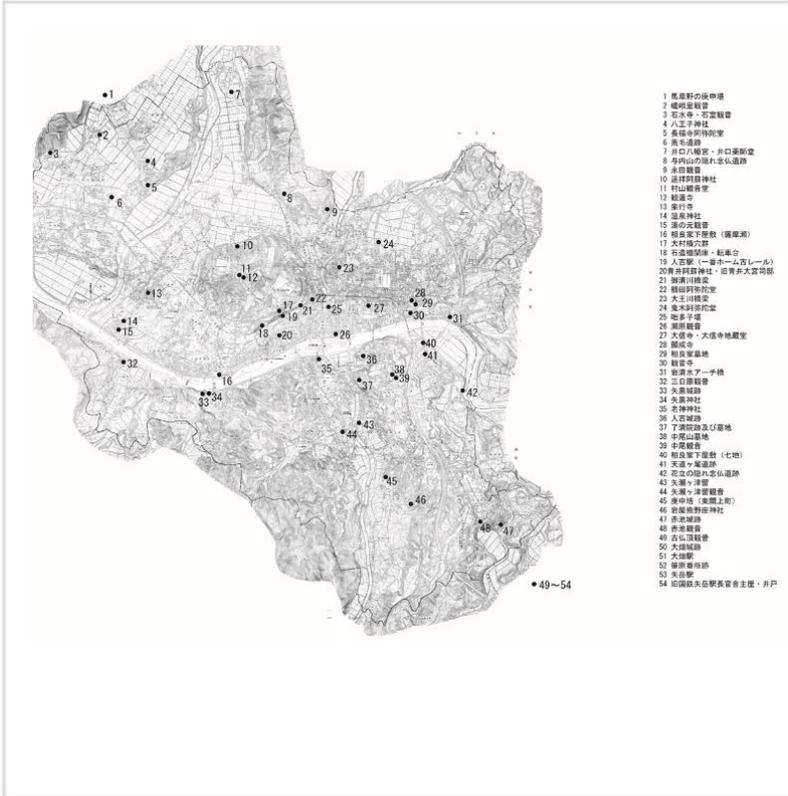
綿々と受け継がれてゆく郷土芸能

球磨神楽、ウンスンカルタ及び臼太鼓踊りは、保存団体の取り組みにより地域住民への周知や継承者育成が行われている。他の郷土芸能も伝承に取り組む団体による公演の場を作ることで伝統芸能継承の重要性を、地域住民に周知することで保護を図る必要がある。





関連文化財群



数多くの文化遺産は、保護活用のあり方も多種多様であると考えられる。また現代の人吉市において、目にするのできる文化遺産は、相良氏700年の統治により培われ醸成されたものが圧倒的に多く、「相良700年が生んだ保守と進取の文化」とテーマを設定している。

ストーリー

- ① 人吉球磨の黎明期
- ② 「相良700年」を物語る史跡群
- ③ 「ほとけの里」人吉球磨に花開いた
 仏教美術
- ④ 相良700年の歴史の風格を感じさせる
 古社寺群
- ⑤ 人吉球磨の近代史を語る現役の鉄道
 遺産
- ⑥ 綿々と受け継がれてゆく郷土芸能
- ⑦ 人々の信仰と祈り、「おもてなし」
 の文化



策定後の成果 (見込まれる効果)

① 城下町エリアの活用

近世城下町としての歴史的価値を護りながら磨き上げ、城下町エリア内に点在する文化財や歴史文化遺産を線でつなぎ、訪問客のニーズに合わせた散策・周遊コースの設定をした。今後さらに行政・住民が一体となり城下町としての認識や魅力を磨き上げ観光面でも魅力を増していくことができる。



② 歴史学習の拠点…人吉城歴史館

生涯学習・学校教育と連携し地域の学習の拠点としての役割を果たしていると同時に観光施設としても定着している。文化財保護の拠点としての機能を持ちながら相良700年の歴史とその象徴である人吉城跡を中心に歴史学習及び情報発信の拠点として活用している。



③ 鉄道遺産の情報発信施設

肥薩線とくま川鉄道は、地域の近代化を象徴する「生きた鉄道博物館」である。その歴史的・文化的価値を未来へ継承し地域振興へ寄与する施設として「人吉鉄道ミュージアムMOZOCAステーション868」を開設した。今後もガイドン施設と観光施設としての機能を強化し観光客誘致につなげていく。

